

成果指標				
成果指標	活動実績			
指標設定の考え方	核家族化・コミュニティの希薄化により、活動実績(利用件数)の増減が機能しているかのバロメーターとなるため、この指標を設定した。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	900	900	900	900
実績	983	975	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子ども・子育て支援新制度の実施により保育所の開設を土曜日も一日としたこと、また放課後児童クラブを年度途中から民間に委託したことで、時間延長が可能となり、これらに係る利用が大幅に減少した。子育て支援において欠かすことのできない事業の一つであり、今後も制度の周知に努めていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	保育所の保育時間の延長や児童クラブの民間運営により、子育てサービスが充実し、当該事業の利用者が大幅に減少している。 しかし、短時間での利用も可能であることから、子育て中の保護者が育児に負担を感じず子育てするためには、有効な事業と考える。 利用価値は十分にあると思うので、今後は細かい内容の周知に努め気軽に利用できるサービスとして充実をさせたいと思う。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題